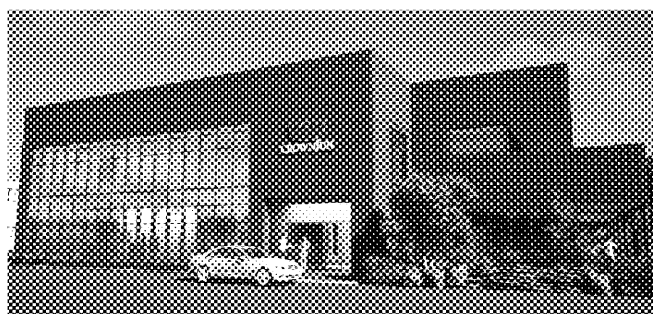


河野製作所、つくばに新棟

【千葉】河野製作所（千葉県市川市、河野淳一社長）は、つくば工場（茨城県常総市）に新棟を建設する。土地を除く投資金額は約15億円で、2026年1月に稼働する。これにより本社工場を含めた全体の医療機器の生産能力（売上高ベース）を現状比3倍にアップさせる。海外展開の拡大に向けて製品の安定供給体制を整備する。

医療機器、能力3倍 開発加速・海外供給拡大



新棟は着工済みで10月に完成する。延べ床面積は2620平方メートルで、新棟の建設でつくば工場の敷地面積は現状比8割増の5874平方メートルに拡大。針付縫合系などマイクロサージャリー（手術顕微鏡を活用し、身体の詳細な部分に行う手術）向け製品を先行して展開しているが、今後は主

力製品の心臓血管外科用の医療機器なども拡大していく。
国内外の医師や研究者、販売会社と交流すること、オープンイノベーションを推進し、新製品開発につなげる拠点としても位置付ける。
実際にモノづくりが行われている製造現場を見学可能にすることで、生産設備から内製化するなど自社の技術力のレベルを訴求する。

また、人と人とのつながりを大切にする社風やフラットな組織などの特徴を体感してもらい、企業価値の向上にも結び付ける。
社員や来客の人数や打ち合わせなどの場面に応じて可変性がある空間とし、河野製作所の歴史や製品を紹介するスペースや、若手陶芸家の作品を中心に展示するギャラリーを設ける。国内よりも海外からの来客が多いと想定しており、ニシキゴイが泳ぐ池や日本庭園などの設置も検討している。

新棟については、実際に働く製造や生産技術の社員と、社外の建築・庭・芸術の専門家がプロジェクトチームをつくり、働きやすさと企業価値の向上を両立できる環境づくりを検討してきた。